

◆岡山大学法学部だより◆

※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生をはじめ、講読の登録をされた方、法学部に関連ある方等にお送りしています

第 178 号(2021 年 5 月 25 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

=====
梅雨の雨に濡れ、木々の緑もいっそう深まったように感じられます。

○新任ごあいさつ

小栗 寛史（法学部専任講師）

2020 年 10 月に着任しました、小栗寛史（おぐりひろふみ）と申します。岡山大学法学部に関係する皆さまにご挨拶申し上げます。

兵庫県神戸市で生まれ育ち、大阪の男子校で思春期を迎え、東京での生活に憧れて大学・大学院の 6 年間で東京で過ごしました。その後福岡で 3 年間研究に打ち込み、ドイツとオーストリアでの 2 年ほどの修行生活を経て、岡山に参りました。コロナ禍での教員生活のスタートということで、ここ数か月はバタバタしている間に過ぎ去ってしまいましたが、親身になって助けてくださる同僚の皆さんと新米教員の講義に寛容な受講者の皆さんのおかげで、こうして新年度を迎えることができホッとしております。

私が学部で担当しているのは国際法です。主として国家間の関係を規律する法である国際法は、国内法に比べると学生の皆さんにとっては身近なものではなく、とっつきにくい科目であると思われるかもしれません。幸いなことに岡山大学法学部には私を含めて 3 人の国際法の教員がおり、講義科目も非常に充実しています。このような国内でも有数の恵まれた環境の中で、私の担当する講義やゼミを通して「あ、こんなところにも国際法！」と皆さんに興味を持っていただけるように、そして学問じたいの面白さをお伝えできるように頑張りたいと思います。

「学問の面白さ」ということに関連しますが、国際法の歴史的展開に着目しながら、国際社会における法の機能と限界について日々頭を悩ます研究者としての顔が私にはあります。「研究」というと皆さんには縁遠いものに聞こえてしまうかもしれませんが、「問題発見と問題解決のサイクル」と捉え直すのであれば、これはとりわけ同窓生の皆さんが日々のお仕事の中で実践なさっていることかと思えます。先の見えない目下の状況で、もう一度大学で学び直し、キャリアアップをしたいと考えられている同窓生もいらっしゃるかもしれません。そのような方々も含め、同窓生の皆さんにいつでも気軽に戻ってきていただけるような環境づくりにも努めたいと思います。

それでは、このメッセージをご覧になっている法学部に縁のある皆さまに、これからの岡大生活でお目にかかれますことを心より楽しみにしております。私は砥石であり踏み台であるので、上手に利用して、輝き、社会に羽ばたいていってください。私も皆さんから多くを学びたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。